

第9回 基底と次元



1. 定義と性質

以下, $K = \mathbb{C}$ or \mathbb{R} , V, V' を K 上の線型空間とする。

定義

- $W \subset V$: 部分空間, $X \subset W$

W は X によって張られる (X は W を張る)

$\overset{\text{def}}{\iff} W$ の全てのベクトルは X のベクトルの線型結合で表わせる

- $\mathcal{R}: V$ のベクトルの有限列

$\mathcal{R}: V$ の基底

$\overset{\text{def}}{\iff} W$ は以下の2つを満たす:

- (1) \mathcal{R} : 線型独立
- (2) V は \mathcal{R} によって張られる

- $\mathcal{R} = \langle \mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_r \rangle: V$ の基底

このとき $\dim V = r$ と定めて V の次元という。

性質

(1) \mathcal{R} が V の基底であるとき, V のベクトルは \mathcal{R} のベクトルの線型結合で一意的に表わせる。

(2) $\dim V = n \implies V \cong K^n$

(3) $K^n \cong K^m \implies n = m$

- W, U : 部分空間

$\implies W \cap U \cup W + U = \{w + u \mid w \in W, u \in U\}$ も部分空間

- $T: V \rightarrow V'$ が線型写像

$\implies T(V) = \{T(v) \mid v \in V\}$ と $T^{-1}(\mathbf{0}') = \{v \in V \mid T(v) = \mathbf{0}'\}$ は部分空間

このとき

(1) $\dim W + \dim U = \dim(W + U) + \dim(W \cap U)$

(2) $\dim T(V) = \dim V - \dim T^{-1}(\mathbf{0}')$